

---

# 大人の時間

ランデブー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大人の時間

### 【NZコード】

N8575A

### 【作者名】

ランデブー

### 【あらすじ】

子供の時九時になると、「寝なさい」と言われた事ありませんか? 「何で子供は九時に寝ないとイケないの?」と聞いたことがありますか? そして、「大人の時間だからよ」って言われませんでしょたか? コレは、大人の時間を怪しく描いたホラー作品。

(前書き)

怪しい設定だと思つので1-2禁ぐらいかもしません。文章が御粗  
末ですが、お楽しみください￥（^○^）／

時刻は八時丁度。

後一時間で寝る時間だ。

何で子供は九時に寝ないといけないんだろう?

僕はそう思い、友達と話した事があつた。

……

「皆はどう思う? 子供だけが、九時に寝ないとイケない事」

「九時から先は、大人の時間だからしようがないよ」

「大人の時間は、子供が見ちゃイケない世界が広がってるんだって」

「今度皆で、大人の時間まで起きてみる?」

「それは無理だよ。眠たくなくても、九時になれば自然に瞼が閉じるんだから」

「そうだよね。アレはまるで、魔法だよね」

僕と友達二人は、大人の時間に興味を持つていた。

大人の時間には一体何があるんだろう? どんな世界が広がってるんだろう?

今思えば、大人の時間なんて興味を持たなければ良かつた……。

今日の夕食はステーキだ。とても美味しい……だけど、愛情なんて伝わらない。僕の家族は今、バラバラにならうとしてるんだ。

お母さんは知らない男の人とイチャイチャしてて、お父さんは知らない女の人とイチャイチャしてるって話だ。ただの噂だから、僕は信じてないけど。

「……ティッシュ取つて」

「……はい」

会話はそれだけだ。コレが会話って言えるのかは分からぬけど、たったコレだけなんだ。

その時、中学生のお兄ちゃんが——

「お前らホント最悪だな！　大人の時間は子供は起きてないから、何でも出来るんだな？　カメラでお前らの不様な姿撮つたから、言い訳したって無駄だよ」

崩壊へと導くスイッチを、押してしまった。

「良介、お前は何をやつているのか理解しているのか？」　子供が

大人の時間に起きていってはいけない、知っているな？」

お父さんは、鬼のように怖い顔で言った。

「貴方は悪い事をしたんだから、反省しないと筋違いよ。だから、覚悟しなさいね……良介」

お母さんは、まるで魔羅のようだ。

お父さんとお母さんは、大人の時間に起きていた事を怒つてるのか？　ソレとも、日頃のストレスを子供にぶつける気なのか？

「ウルサイなんだよ……お前らがいつも、あんな態度をしてるから悪いんだろ？」

お兄ちゃんは、壁を思い切り殴り怒鳴った。

「おとなしくしろ」

お父さんは静かにそいつの言ひ方と、お兄ちゃんの腹部を力一杯殴つた。

そして、おとなしくなつた——

「お前は、良介みたいに大人の時間に起きてちゃイケないよ。大人の時間つてのは、とても危険な世界なんだ……一度迷い込んだら、二度と出られない」

怖いよ……逃げなきゃ……

「ハハハ……。ソイツも殴つておけば？　そして、手枷足枷を付けて放置プレイとかしちゃつたら～」

「ワアアアーーー！」

僕は叫び、助けを呼んだ。

「アハハ、怖がらなくとも大丈夫よ。お前は、変態雌豚野郎に飼われるんだからさ～、アハハハハ」

お母さんは、怒っていた。

「許してくれ。大人の時間に迷い込んでしまった、哀れな大人を許してくれ」

お父さんは、涙を流しながら僕に近付く。

ドスツ……

田の前が真っ暗になつた。

+

僕はどうなつたんだらう？ 死んだのか、生きているのか。多分  
生きてるとは思うけど、僕を待っているのは生き地獄だと思う。  
いつそこのまま死にたい。天使が僕を迎えてくれると、願  
いたい……。

するとその時、

「…………しろ！…………覚ませ！」

微かに声が聞こえた。

「しつかりしろ！ 田を覚ませ！」

ハッキリ声が聞こえた。

—

「みんな……」

「よかつた、田を覚まして。心配したよ  
死んだと思つたじやんか～！」

友達は、僕の事を心配してくれてゐる。

「みんなアリガトウ。それで、ここは何処？」

僕と友達がいる部屋は、何に使うのかワカラナイ道具が沢山あった。

「…………拷問部屋かな？　それとも、処刑部屋かな？」

「怖いよ…………」

二人は、ブルブルと震えていた。

「…………」

力チツ　…………　力チツ　…………

「もう、九時だ」

力チツ　…………　『ゴーン…………』

「大人の時間――」

九時になると同時に、ゴーンという鐘の音が鳴り、何処からか霧が出  
てきた。

そして、右往左往から悲鳴が聞こえてきた。

『キヤアアア――！』

『来ないで！』

僕は怖くなり、両耳を手で塞いだ。

「君、怖いの？大丈夫よ、お姉さんが優しくしてあげるから」

「えつ——？」

目の前に、お姉さんが立っていた。ドアが開いた音なんてしなかつたのに、どうやってココに入ったんだ？

「フフフ……大人の時間が、何をする時間なのか分かる？　楽しい楽しい遊戯をする時間なのよ」

ドクドク——

「泣かないで笑ってよ。だつて、今から眞で遊ぶんだからさあ」

ドクドクドク——

「さあ、さつさと立ちなさい。そして、そこのテーブルに寝転がりな」

ドクドクドクドク——

鼓動が激しくなっていく。

「……ん？ 何かお尻が冷たいなあ。まさか……」

少年は、布団を恐る恐る触つてみた。案の定冷たい。

「おねしょしちやつた。どうしよう、コレ？」

カーテンの隙間から、陽光が射し込んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8575a/>

---

大人の時間

2010年10月14日09時10分発行